

▲本号には「井伏鱒二「一路平安」〈今日の問題社版〉・〈有光名作選集版〉本文推移一覧」を掲載した。「一路平安」は、文化元年9月（1804年10月）、ロシア使節レザノフ来航に揺れる長崎の10日間を舞台にした作品で、長崎の特色を見事に捉えていると思う。昨冬（2015年3月）、同人誌『人類』関係資料を探索する目論見もあって、2泊3日で長崎・島原などを回ってみた。井伏が長崎を訪問したという記録はない。しかし、「一路平安」の地理的設定と、実際に歩いた長崎との間に矛盾は見えない。それどころか、繁華な長崎中心部と間吟塾（対岸の稲佐山山腹に設定か）との距離感などは絶妙な具合。依拠資料にしても幕府の外交史料集「通航一覧」だけでないことは容易に想像できる。新聞連載時だけでなく単行本でも挿画を担当した吉田貫三郎が、挿画の粉本に「環海異聞」を用いているのだが、「一路平安」発表当時、地図や挿画類を載録した「環海異聞」の活字本は出版されていなかった筈である。井伏も史資料をいろいろ参看していた形跡が作品に残っている。「一路平安」執筆時には井伏の近所に夏江永見徳太郎が住まっていたから、その線も考えられるが、依拠資料の調査はいまだ五里霧中。

▲雑誌発表の短篇の本文推移・本文異同ばかり扱ってきたので、新聞連載で、しかも、初刊本と再録書との関係を探るという新たなことを試みた。必ずしも初刊本で表記・表現の整理が行き届かず、再録段階で表記の統一・整齊が行なわれているという現象は浮かんできたのだが、それにしても新聞の長期連載作品を扱ったのは短見浅慮であった。……とにかく長いのである。

▲個別の異同は、作品本文全体において考察する必要がある。本文推移一覧には現われていない関連箇所から、気になる表記例を確認するだけで、骨が折れる。分量也多すぎる。具体的な目的を掲げない本文推移の一覧は、始末に困る代物である。実際に何に使えるのか分からないのだ。考察とセットで掲載するべきところだが、作業が追いつかず、本号には推移一覧のみを掲載するしかなかった。

▲11月22日から23日まで1泊2日、福山市轄で大学時代の極私的同窓会。国文・独文・国史・東洋史といった文学部連中に教育学部高国（高等学校教員養成課程国語の略だったか）が加わる十人足らずの人数。3年ぶりの筈（2年ぶりだと嘯く者もいて、還暦を過ぎた参加者たちの記憶は既に迷走）。初日は轄のボランティアガイドの方に案内して貰って、2時間近く歩いたか。保命酒の醸造元の試飲で騒いだり、沼名前神社で能舞台の節穴を覗き込んで喜んだり、他愛のないことで久しぶりに会った友人たちと過ごす。2日目は国文の女性が数名参加して、ふくやま文学館と美術館を見学。昼食には、淡泊な豆腐料理（福山・天満屋「豆風花」）を選んで散会という爺婆集団。久しぶりに「前田」とか「前田君」と呼ばれて学生気分。呼び捨てにしてくれる人が少なくなっているのが貴重な知友。

▲今年度で国立大学の中期計画・目標の第2期が終わる。予算の執行が早まって印刷発注の期限が12月22日（火）だというお達し。本号も完全原稿を用意しなければならないのだが、今日は12月20日。殆ど余裕なく、この文書を書いている始末。そして、来年度は、また改組（しかも、その新たな組織の方向性や名称は構成員の賛成を得られなかったのだが）。先の改組から、机上に置いたラックに貼り付けている名刺で一々確認しないと、所属組織も書き込めない程の時日しか経っていないのに。

▲教育政策・行政というのは、その良否や将来的な負の要因も十分に検討することなく、簡単に転換するらしい。コンビニで新商品を発売するにしても、それなりの市場調査はしている筈だし、一つ二つの新商品が売れなくても決定的なダメージを受けて倒産する……といったことはなからう。

▲教育関係の新商品・新企画は、後戻りできない打撃を蒙る危険性も孕んでいる（まあ、倒産の危機です）。にもかかわらず、市場調査も不十分なままに文科省の方針だということでもかり通って行く。文科省の方針は、需要を必ずしも保障しないと思うのだが……（文科省が決定すれば需要が大きくなるというのは僭越）。方針を決定した責任者は自分の任期の先のことに責任を取らない（取れない）。独立行政法人＝国立大学法人になって、予算で首根っこを押さえられて、却って「独立性」を喪失してしまったのが現状。「お上の事には間違はございますまいから」という一句も吐きたくなる（これを痛烈な皮肉と解する教養は、某省傘下の委員会では「社会的要請」の埒外にあるのだろうか）。

（前田貞昭）

*メール便で前号をお送りした方々の敬称が脱落していました。お詫びします。

兵庫教育大学 近代文学雑誌 第27号

ISSN 0918-8770

〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1

兵庫教育大学大学院 教育内容・方法開発専攻
文化表現系教育コース言語系教育分野（国語）

前田研究室

Tel. & Fax. 0795-44-2083（ダイヤルイン）

E-mail: sadm@hyogo-u.ac.jp

印刷 株式会社フジワラ

2016年1月20日発行

（非売品）